

# 保育所に教育を

A こども園をめざす



石原議員

政府は、幼稚園と保育所両方の機能をあわせ持った、総合こども園構想を公表した。

石原敏郎議員  
平成24年度から本町運営の保育所を社会福祉協議会に業務委託することになるが、そのメリットを再確認する。

本町でも、業務委託のメリットを活かし「よこみね式教育法」などを参考にした幼児教育を保育所に取り入れ、こども園をめざすべきだ。

また、町と社協の保育士待遇差異を解消しないままでの業務委託は本来の姿ではない。今後どのように対処する考えか。

山崎町長

メリットは、1、経費抑制により、将来的に安定・良好な運営ができる。  
2、役場職員削減を至上命題としている中、社協による正規職員雇用によって保育体制の充実が図られる。

山崎町長  
幼児期は人間形成の基礎を養う大切な時期であり、こども園構想に向かっているべきだと思う。社協の業務が安定してくると、そうした新たなお願いをする。

山崎町長  
健康ブームで玄米食は有益だが、炊飯時間がかなり消費が一般的でない。誘致企業の特許技術は、超加圧加工により通常と同じ炊飯ができる。食べやすく消化吸収のよい玄米として全国販売する。年間3千6百トンの加工が可能だが、本町の24年産米生産目標数量に匹敵するもので、大変大きな事業規模だ。

士は辞令により社協の指揮下に入るの、保育現場での支障はない。待遇の違いについては、解消の検討をしていない。

## Q 新誘致企業の魅力は 夢ある事業の支援を

石原議員

玄米を6千気圧という途方もない圧力で加工する企業が当町に進出するが、大きな口マンを感じた。事業だ。

企業誘致条例による最初の会社になるが、事業内容と事業規模を問う。

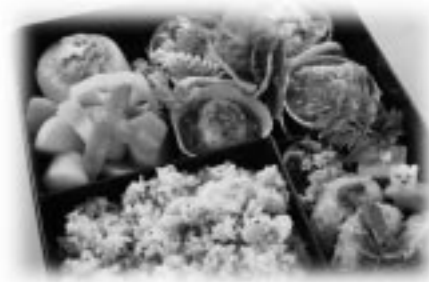
山崎町長

健康ブームで玄米食は有益だが、炊飯時間がかなり消費が一般的でない。

石原議員  
森林セラピーの中核施設「もりのす」ではマクロビ(玄米菜食)をめざした食を提供している。マクロビの主役は玄米だが、この加圧玄米は究極のマクロビに通じ、当町に福が舞い降りてきたと捉えるべきだ。

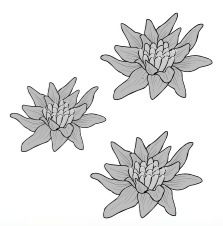
山崎町長

企業立地にあたり、食品加工業者育成など4項目の支援協力要請がある。雇用や他の産物への波及効果など、本町まわりの全般的に効果が期待でき、飯南町をブランド化する夢のある事業だ。幾多の困難はあるが、



「もりのす」のマクロビメニュー

本町にとつて大きなチャンス。議会をはじめ、町民のご支援をお願いしたい。



# 町政を問う 一般質問

3月定例会

## A 今後の畜産振興策は 繁殖基盤再生から



永井 章議員

本町の基幹産業で稲作に次ぐものは畜産だが、次の4点について答弁を求めます。

①全国和牛能力共進会の候補牛として、本町より7頭が選抜されている。今後の選抜日程、激励会計画、平成24年度の全共出品対策予算を聞きたい。

②町内に2つある肥育センターのうち、赤来は廃止、頓原も本年12月に廃止される予定だが、雲南農振協の検討状況は。

また、頓原肥育センターを「Gyu・牛会」の活動拠点とする考えはないか。

山崎町長  
①今後の選抜日程は7月が最終だが、激励会は最終選抜会までに予定されている飯南町和牛改良組合の総会に合わせて開催する。

③子牛価格補填事業は、雌・去勢を分離した平均価格に見直すべきではないか。  
④町民より、赤名スキ場敷地内にある育成牛舎の解体と跡地の整備について要望があった。町長はどう対処するのか。

山崎英樹町長

全共出品対策経費は24年度予算に計上している。②雲南農振協の畜産プロジェクトにおいて、繁殖と肥育の一体的運営方針を出したが、さらに検討を進めるため専門部会を立ち上げた。

「Gyu・牛会」の活動には期待しており、支援していく。  
③子牛価格補填事業は、24年度から雌子牛を重点にした価格補填制度に衣替えした。  
④育成牛舎の解体には多額の費用を要することから処分できずに現在に至っているが、計画的な撤去を考えていく。



全共候補牛の巡回指導

## 議会と中山間研究センターとの意見交換会

1月27日



飯南町議会議員と島根県中山間地域研究センターの土谷所長ほか幹部職員と意見交換会を開催した。今回は特にテーマを定めず、飯南町の施策との関連事項について、農林業の振興、観光産業との連携、飯南高校の魅力ある学校づくりと活性化策などへのかかわりについて説明をうけた。

意見交換会では、農林業の振興について多くの発言があり、林業振興・里山再生策について意見交換をした。

その中で、特産の黒豆「赤名黒姫丸」を枝豆として出荷することの優位性について話があり、枝豆は黒大豆より収益性が高く収穫時期を約2ヶ月早めることで降雪期へずれ込むリスクを避けられるが、一方で手間がかかることも指摘された。



中山間地域研究センター 土谷所長(当時)

